エステ生きる力

がん患者のこころも支援

がんなどの病と闘う女性向けのエステが生まれている。体調に合わせた繊細な対応が好評だ。薬の副作用などで荒れた肌のケアだけでなく、こころの支援にもなっている。医療関係者からは「生きる力」を引き出す役割が期待されている。

左闘病中の女性に施術する光江弘恵さん＝東京都文京区、光江さん提供
右落ち着いた雰囲気のエステサロンを開いたさとう桜子さん＝東京都中央区築地２丁目、小宮路勝撮影

東京都中央区の国立がん研究センター中央病院から歩いて数分。築地本願寺の真向かいにビューティーサロン「セレナイト」はある。さとう桜子さん(48)が1人で営み、今月、開店1周年を迎えた。ホームページには「がんでも美しく輝く女性でありたい」とある。

がん患者の外見の悩みは深い。肌の変色や顔のむくみ……。一般のエステサロンではしばしば、「対応できない」と断られる。そんな人たちがインターネットで見つけ、「ようやくたどり着いた」とやって来る。

さとうさん自身、3年前に子宮体がんを発病。抗がん剤のため「水のにおい」にさえ吐き気をもよおすほどだった。そんな状態のころ、同じ病室の女性と「がんでもおしゃれしたいよね」「いずれエステサロンを開こうよ」と意気投合した。もともと化粧品会社に長く勤め、エステの技術を習得していた。サロンの夢が実現し、お披露目をした翌日、彼女は亡くなった。

闘病生活を乗り越えたさとうさんは「特に若い方は普通の化粧ができないだけでもつらい。だけど、少しでも肌の状態が良くなれば、『私、大丈夫じゃないかな』と希望が持てると思うんです」と話す。

東京都杉並区の京王井の頭線沿いの一軒家では、森田雅子さん(56)が、がん患者らに施術している。

主婦だった森田さんは12年前に乳がんになり、一時はリンパ節に転移するまで悪化した。「子どもが大学を卒業するまでは学費を稼がねば」。そう考えて化粧品会社に勤め、エステの勉強をした。やがて独立し、自宅をサロンにした。

料金は、病気の人もそうでない人も50分で4千円。おとし、医師に闘病からの「卒業」を告げられた森田さん。「患者さんは楽しみが限られます。だから、これくらいのぜいたくはいいじゃないですか？　ＱＯＬ(生活の質)も上がるはずです」から支えるイメージです。肌そのもののケアより、胸の苦しさを吐き出してもらうのが大事なのかもしれません」と光江さん。

国立がん研究センター中央病院には、外見の悩みに対応するアピアランス支援センターがある。野澤桂子センター長は「肌に触れてもらうことは他者に『大切にされている』という感覚を生みます。エステに期待される効用は、人との温かい交流によって『生きよう！』と思う力を引き出すことです」と話している。

（磯村健太郎）

資格者　協会も養成

日本エステティック協会（東京都千代田区）は、肉体的・精神的なつらさを抱える人たちに対応する「ソシオエステティシャン」を養成している。ソシオは「社会的な」といった意味で、がん患者ら孤独感にさいなまれる人と社会をつなぐ役割が期待されている。

この分野で先進的なプログラムを基にした養成講座は日本で7年前から始まった。福祉などの授業や医療機関での実習がびっしり。審査で認められると、民間資格を得ることができる。これまで55人が誕生した。医療機関で活動する場合は原則として、医師や看護師の打ち合わせに「チーム」の一員として加わる。横浜市都筑区の山本記念病院のように、2人のソシオエステティシャンが勤務しているところもある。

ソシオエステティシャンとして東京都内や埼玉県の病院で働く光江弘恵さん(47)は5月、血液のがんにかかった女性と出会った。無菌室に何カ月も入り、子どもと会えない。脱毛や爪の変色など薬の副作用も出ている。そんな状況でエステを施すと、涙を流して喜んでくれた。「私たちの役割は、医療や福祉を側面か

◆セレナイト(03・3542・5530)
http://celenite.net/
◆森田雅子さん
est.de.5@docomo.ne.jp
◆日本エステティック協会(03・3234・8496)
◆ＮＰＯ「ソシオキュアアンドケアサポート」（理事長・光江弘恵さん）
http://mycuresupport.wix.com/sociocure

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。